

地図から沖縄基地問題の本質を探る！ ～地図と資料から考察する能力を高める授業の実際～

宮崎市立大淀中学校 内田 智

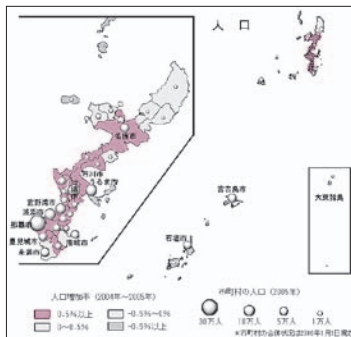
沖縄県の面積は国土面積の約0.6%に過ぎないが、そこに日本の米軍基地面積の約75%が集中し、その割合は県の総面積の約11%にもなる。そのなかでも中南部に集中し、嘉手納町・金武町・北谷町・宜野座村は、50%以上を占め、とくに嘉手納町では約83%が使用されており、住民は基地から派生する諸問題と隣り合わせの状況で生活している。また、これらの町村の近隣には、沖縄市や浦添市、さらには名護市といった人口や産業が集中する地区があり、基地の存在が、沖縄県の振興発展に大きな影響を与えていることはいうまでもない。

〈指導の展開〉

①米軍基地がどのような場所にあるかを予想する。

教科書の挿絵は見せずに発表させると、ほとんどの生徒が、海岸部や山村部といった過疎地域を答える。

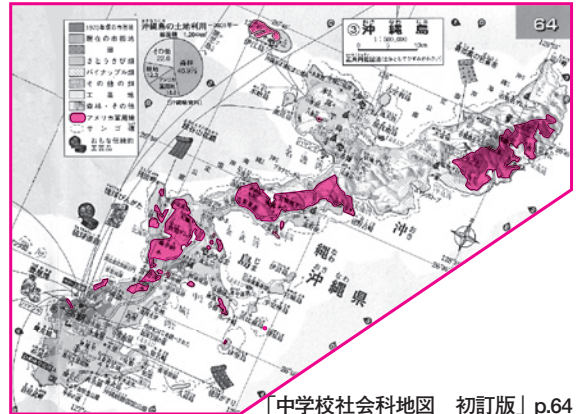
②帝国書院のホームページ、沖縄県の人口の地図に、地図帳p.64を参考にして、米軍基地の場所を記入する。



(帝国書院ホームページ 小中高生のページ 日本の都道府県調べ 沖縄 人口)

人口の多い地域や人口の伸び率の高い地域にも多くの基地等の施設があることに気づかせる。

(教科書の挿絵も参照)



〔中学校社会科地図 初訂版〕p.64

③比較的大きな軍の施設でどのような演習が行われているのかを調べる。

沖縄県のホームページ等を活用し、大きなキャンプ地や飛行場の演習内容を調べることで、基地周辺の住民の危険度や地域発展の妨げになっていることに気づかせる。

④基地が与える住民や地域に対する影響（安全面、地域の発展、経済的影響）を調べ、次の論題でディベートする。

【基地の整理縮小は、沖縄県の発展にプラスかマイナスか】なお、このディベートについては、生命尊重の立場から、基地の整理縮小の方向でまとめた。その際、基地関係の従事者等に対する金銭面での保障や雇用問題などが、国や沖縄県の重要課題であることにも気づかせたい。

☆基地の大きさを実感させるためには、生徒の居住地の同縮尺の地図や施設との比較が有効である（嘉手納基地においては、甲子園球場の約500倍、東京ディズニーランドの約40倍など）。